

# 平和の舞<神楽の学校 2022in アステールプラザ>

—現代によみがえる“儀式舞”比婆荒神神楽他—[レクチャー・ワークショップと神楽公演—

KAGURA for Peace <“the School of Kagura”2022 in Astel Plaza>

—Lecture・Workshop and the Performance of Kagura—

Reintroduction of *Gishiki-mai*(Ritual Dance) : *Hiba-Kojin Kagura* etc.in the modern times.



ヒロシマ・ミュージック・プロジェクト代表 総監督  
Chief Director Koji TOMOTANI

伴谷晃二 作曲家/エリザベト音楽大学名誉教授

神楽は本来「地域文化」の共同体から醸しだされてきたものであり、“農耕儀礼と奉納のみならず、亡くなられた多くの方への“鎮魂と再生と復興”を原意とする。本プロジェクトは<多文化社会と共生>の理念のもとに「平和の舞」として、<ヒロシマからのメッセージ>“負の遺産 核兵器廃絶・平和への希求”を世界に発信し祈念することを目的としています。今回、「第二回平和の舞<神楽の学校 2022in アステールプラザ>—現代によみがえる”儀式舞”比婆荒神神楽他—[レクチャー・ワークショップと神楽公演]」では、儀式舞を基軸とし、旧舞—新舞へと発展して行った受容過程に着目し、子どもたちから一般社会人まで、世代を越えて関われる地域社会における“神楽”を展開してまいります。卓越した文化力を誇る<ひろしま神楽>は、“鎮魂と再生と復興”や“農耕儀礼と奉納”他、“自然との共生”等、私たちに多くの示唆を与えています。

このような進捗状況を踏まえて、基軸となる儀式舞とその発展である<伝統神楽>の旧舞や新舞、そして<創作神楽>への応用発展等について、神楽の歴史やワークショップや公演を通して、<ひろしま神楽>の継承と後継者育成他、神楽文化・芸術の発展に貢献できれば幸いです。

Kagura originates from the community of local culture, dedicating to not only agricultural rituals and dedication, but requiem, rebirth, and revival for people who died. This project, a dance for peace, based on the concept of coexisting in multicultural society, aims to convey the message from Hiroshima to the world; abolition of nuclear weapons and longing for peace. KAGURA for Peace <the School of Kagura 2022 in Astel Plaza>—Lecture, Workshop and Performance of Kagura— shows the history of Kagura; mainly how to develop the ritual dance style from old to new and involve almost all generations of local community. Hiroshima Kagura, especially, tells you more significant stories on its history. Through the workshops and performances, I sincerely hope to contribute the succession and successors, and the culture of art for Hiroshima Kagura.



かみなかちょうし  
NPO 法人上中調子・あおぞら子供神楽団 (広島市)  
会長 池原康則 <神楽とワークショップ>  
Chief of Kaminaka Choushi Aozora kodomo Kaguradan  
Yasunori IKEHARA

平成 15 年神楽に興味のある小学校 5 年生の子ども達 5 人で結成。笑顔で挨拶、高齢者の方々そして仲間を大事にするを基本とし、平成 18 年 10 月 18 日 NPO 法人あおぞら子供神楽認証を受けた。

その後子ども神楽団の OB 達で大人の神楽団を作り、平成 22 年 4 月 28 日に NPO 法人上中調子神楽団・あおぞら子ども神楽団に名称変更。平成 28 年 2 月 6 日には第 18 回広島ユネスコ活動奨励賞を受賞。一昨年まではあおぞら子ども神楽団は老健施設、児童館、公民館、神社祭り等、年 60 回の公演。練習は金曜日 19 時 30 分より。



【比婆荒神神楽】比婆荒神神楽子ども神楽塾 (庄原市)  
塾長 横山英史 <神楽とワークショップ>  
Chief of Hiba-Kojin Kagura Kodomo Kagurajyuku  
Hidefumi YOKOYAMA

子ども神楽塾は、平成 13 年 8 月、支援組織としての「比婆荒神神楽東城後援会」とともに設立されました。練習では「すり足」「腰割り」「蹲踞」「四股」「股割り」など腹腰の決まる基本的な「からだづかい」や、神楽の歴史を学んでいます。現在、塾生は、小学生から高校生までの 13 名で、毎月 2 回比婆荒神神楽社の社中の方から指導を受けている。



【芸予諸島神楽 I】戸田神楽保存会(呉市) 会長 竹本 剛  
Chief of Tota Kagura Hozonkai Tsuyoshi TAKEMOTO

神楽が戸田に伝わったのは、安政 3 年(1856 年)の神楽本が補完されていることから江戸時代後期と思われる。戸田の神楽は全部で 16 演目ある。約 4 時間を掛けて磯神社へ奉納される。演目を大きく分けると、舞場を清めて神を勧請する「儀式舞」と、神々と共に皆で楽しむ「形式舞」の二つで構成されており、わずか、二枚の筵の上で舞う。「儀式舞」は御幣を持って優雅に舞い、「形式舞」は鎧を付けた舞手が剣や弓や薙刀を彩って力強く激しく舞う。



【芸予諸島神楽 II】大歳神楽保存会(呉市) 会長 脇田一男  
Chief of Otoshi Kagura Hozonkai Kazuo WAKITA

大歳神楽保存会は呉市仁方町の大歳神社に奉納する大歳神楽を管理、運営する団体。昭和 45 年(1970)の社殿改修の折にしばらく途絶えていた大歳神楽を復活する為に結成された。現在は大歳神社社の秋季大祭で毎年、八岩華神社の秋季大祭で一年おきに神楽を奉納している。



【安芸十二神祇神楽 I】河津原神楽団(廿日市市) 団長 竹内 健  
Chief of Kawazuhara Kaguradan Ken TAKEUCHI

かわづはら  
河津原の神楽舞は明治の初め頃には既に舞われており、河津原八幡神社への奉納神楽として幣や幡や扇などによる払い清めを基調に置いた「十二神祇」を奉納した。近年は、「十二神祇」を保存・継承し「高田八調子」や、「石見八調子」にも取り組んでいる。河津原八幡神社への奉納神楽を中心に地域行事にも参加している。



【備後神楽】萩原神楽保存会(三原市) 会長 近光 崇行  
Chief of Haibara Kagura Hozonkai Takayuki CHIKAMITSU

萩原神楽保存会は、昭和 47 年に結成。本年で 50 周年という節目の年を迎えた。この地方に伝わる神楽は、備後地方の大部分と安芸の東南部一帯の地域に広く伝承されているもので、備後神楽と呼ばれ、純然たる広島県の神楽と言われている。現在会員は 10 名。後継者の育成確保に努め、備後神楽の正統な流れを基本とし、会員一同、伝統文化の保存と継承、また地域活性化にも資すよう、活動に精進したい。



【芸北神楽 I】津浪神楽団(安芸太田町) 団長 末田健治  
Chief of Tsunami Kaguradan Kenji SUEDA

こうち  
昭和 6 年河内神社を主祭神とし、その氏子により「津浪神楽団」として設立。石見神楽の流れを汲む矢上系山県舞の伝統を守り、六調子の旧舞を主体に継承し、今日に至る。活動は、地元をはじめ広島市等各地の秋祭りの神楽奉納、イベント出演や神楽競演(共演)大会等の出演。昭和 57 年「第 3 回広島文化賞受賞」、平成 23 年「日本の祭りインハワイ公演」、平成 30 年「広島神楽グランプリ 第 20 代グランプリ受賞」(旧舞の部)



【安芸十二神祇神楽】阿刀神楽団(広島市) 団長 浜直樹  
Chief of Ato Kaguradan Naoki HAMAHIRO

あとう  
阿刀神楽は、850 年頃から阿刀明神社に伝わる十二神祇神楽。その後、1800 年頃、宇高宗助という武芸者が難波一甫流という柔術の型をこの神楽に取り入れて、舞い継がれて来ているのが特徴であり、非常に洗練された舞である。神事としてばかりでなく、民間芸能として価値の高いものであることが認められ、1965 年に広島県無形民俗文化財に指定された。その後、文化庁より記念作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財にも指定されている。



【芸北神楽 II】横田神楽団(安芸高田市) 団長 久保良雄  
Chief of Yokota Kaguradan Yoshio KUBO

横田神楽団の歴史については定かではありませんが、古老の話等から推測すると、江戸時代末まで遡ることができる。当神楽団では、高田八調子系(旧舞)を伝承してきたが、昭和 20 年代に入り新舞が創作されると、いち早く新舞に取組み、昨今は新舞中心の奉納活動を行ってきた。今後後継者育成に努めるとともに、先人より伝承されてきた神楽の原点にこだわりのもち、伝統芸能の伝承に精進したい。



【比婆荒神神楽】比婆荒神神楽社(庄原市) 社長 横山邦和  
Chief of Hiba-Kojin Kagurasha Kunikazu YOKOYAMA

もとやまさんぼう  
比婆荒神神楽は庄原市東城、西城町を中心に行われる本山三宝荒神に奉納する祖霊信仰の神楽である。この地方には中世の名残「名」の形がそのまま残っており、本山三宝荒神は「名」全体の祖霊神とされ、守護神・産土神としての性格を持ち、その信仰は非常に厳しく、神楽は名内の人々が最も盛大に厳粛に行ってきた。またこの神楽は鎮魂の要素を残しているのが特徴といわれ、託宣の神事を伝えていることは全国的にも貴重な存在とされ、昭和 54 年(1974 年)に、国の重要無形民俗文化財に指定された。